

授業コード	520226	オムニバス	
科目名	福祉空間の設計 (Welfare Space Design)		
配当学年	2	単位数	3
年度学期	2019年度 秋学期	曜日時限	水曜2限 水曜3限 水曜4限 水曜5限
対象学科	建_工入	コース	
科目区分	専門科目	必選の別	選択必修科目
担当者	野口 祐子、白石 充		
教室			
実務家教員担当授業	担当教員は障害者支援の実務経験があり、障害者・高齢者等の特性を十分理解した上で、高齢者・障害者のための住環境整備、空間設計に実践的な実例やテーマを用いて授業をおこなう。		
授業の目的と進め方	高齢者や障害児・者が日常生活動作をできる限り自立して行うために、また、介助者の負担を軽減するために、住宅は機能的な性能を備えている必要がある。さらに、それだけではなく、どのような状況にあっても、当たり前心地よさを実感できる空間であり、豊かな生活を可能にする質の高さも求められる。ここでは、具体的な対象者のため、それらを実現する空間の設計を行う。		
達成目標 1	高齢者、障害者の心身機能の特徴を理解し、心身機能の状態や介助者、家族の状況を把握し説明できる。【20%】		
達成目標 2	高齢者、障害者の心身機能の変化（老化、成長も含む）を想像し、長期にわたって対応できる住空間を検討できる。【20%】		
達成目標 3	上記を把握した上で、適切な住環境整備の方法について、具体的に提案できる。【20%】		
達成目標 4	機能的な側面にとどまらず、住み手が望む生活行為や暮らしについて理解し、それらを実現する空間を提案できる。【20%】		
達成目標 5	機能、居心地や空間の豊かさを盛り込んで、住み手が望む住空間を設計により表現できる。【20%】		
達成目標 6			
達成目標 7			
アクティブラーニング			
ディスカッション		ディベート	グループワーク ○ プレゼンテーション ○
実習		フィールドワーク ○	
その他課題解決型学習	設計		
修得する知識・技能	関与度	修得する知識・技能	関与度
専門的知識・技能	◎	実践的技術力	◎
		豊かな人間性と社会性	○
	授業計画	授業時間外課題（予習および復習を含む）	
第1回	課題の説明 【課題1】暮らしと空間の全体像についてのエスキース/心身機能、家族、介助者等に合わせた福祉機器や住宅改修の提案（図面、写真、スケッチ等）	予習：高齢者・障がい者の生活と空間の復習（2時間） 復習：与えられたテーマ、求められている条件を整理する。（2時間）	
第2回	現状の調査 建物の条件の確認（実測）と本人の動作の確認	予習：求められている条件を整理する。（2時間） 復習：現状の調査で得た情報を整理しておく。（2時間）	
第3回	実測図面・模型の作成 エスキース：暮らしと空間の全体像（動線及びゾーンプランニング）	予習：実測図面を完成させる。（2時間） 復習：動線及びゾーンプランニングを考える。（2時間）	
第4回	本人の心身機能や介助者、家族の状況を把握する 福祉機器の機能を知り、実測図面に入れ込む	予習：エスキースの振り返りをする。（2時間） 復習：課題1を完成させ、発表準備をする。（2時間）	

第5回	発表1：課題1の提出、発表 課題の説明 【課題2】暮らしの視点で考え、一番大切にしたいことを図面にする	予習：講評をもとに、問題点を整理する。(2時間) 復習：計画の方向性を確認する。(2時間)
第6回	エスキース：与えられた条件から、何を大切に、どう形にするかを構想する	予習：与えられた課題「一番大切にするもの」を構想する。(2時間) 復習：構想を形にしていく。(2時間)
第7回	図面のほかスケッチ、模型など一番適切な表現方法を選んで表現する	予習：構想を形にする。(2時間) 復習：課題2を完成させ、発表準備をする。(2時間)
第8回	発表2：課題2の提出、発表 課題の説明 【課題3】住宅全体を表現する	予習：発表準備をする。(2時間) 復習：講評をもとに、問題点を整理し、構想を深める。(2時間)
第9回	エスキース、課題1、課題2を盛り込んだ図面作成	予習：構想を深める。(2時間) 復習：エスキース、図面作成を進める。(2時間)
第10回	図面作成	予習：津面作成をする。(3時間) 復習：図面作成を進める。(2時間)
第11回	模型作成	予習：必要図面を完成させる。(3時間) 復習：模型作成を進める。(2時間)
第12回	プレゼンテーションボード作成 設計のコンセプトとなる課題2を中心に、暮らしと空間の魅力を伝えるためのプレゼンテーションの技術を駆使する	予習：模型を完成させる。(3時間) 復習：コンペ作品や先輩たちのプレゼンテーション作品等を見て、自分の表現したいことを構想する。(2時間)
第13回	最終提出・教室内講評会	予習：提出物の仕上げ。(3時間) 復習：講評会での指摘を整理し、改善すべき点を修正する。(2時間)
第14回	合同講評会	予習：合同講評会の準備。(3時間) 復習：他の学生の発表を見て、自分の表現について振り返る。(2時間)

評価方法と基準	最終提出物に至るまでの図面や模型等提出物(30%) + 最終提出物(70%) (提出課題については講評を行う。)
テキスト	とくにテキストは使用しない。適宜に資料を提供する。
参考図書	日本建築学会編『コンパクト建築設計資料集 障がい者』丸善(2002) ISBN : 978-4-621-07010-9 東京商工会議所編『福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト<改訂4版>』(2016) ISBN : 978-4-924547-58-2
科目の位置づけ (学習・教育目標との対応)	より具体的に実際に生活する住宅の設計を行う。2年春学期には「高齢者・障がい者の生活と空間」で高齢者や障害者の身体状況や行動特性を学んでいるが、そうした特別なニーズを持つ人に合わせた住宅の設計である。住む人の心身機能や介助者、家族などの条件を丁寧に読み取り、成長や老化といった時間的な変化への対応も盛り込んで組み立てていくという、非常に重要なテーマを学ぶことができる。
履修登録前の準備	これまで受けた「高齢者・障がい者の生活と空間」や設計の科目で学んだことを復習し、知識や技術として活用できるように自分のものにしておくこと。